

連携先世界遺産： 醍醐寺

本科目が取り組んだ課題・改善事項

醍醐寺の原点である上醍醐の魅力伝える マップ・パンフレットの提案

■ 受講生

氏名

金剛 佳佑 (京都橋大学・文・4)、藤倉 図南 (京都橋大学・文・4)、杉浦 紗生 (京都橋大学・文・2)、
中谷 俊哉 (京都橋大学・文・2)、小松 真人 (京都橋大学・文研・2)、指 綾羽 (京都橋大学・文研・1)、
渡邊 菜月 (京都橋大学・文研・1)、

■ 担当教員

一瀬 和夫 (京都橋大学・文学部・教授)、TA. 嵯峨根 絵美

活動目的・概要

醍醐寺の根源である上醍醐の魅力を知ってもらう。

醍醐寺には上醍醐と下醍醐があり、上醍醐は醍醐寺はじまりの地とも言われています。下醍醐では、京都最古の五重塔の他、桃山時代以降の数多くの堂があります。また、上醍醐にも、平安時代～桃山時代にかけての数々のお堂、仏像などがあります。さらに、醍醐寺発祥の地としての「醍醐水」があるのも上醍醐です。

残念ながら、度重なる火災などで、文化財の保存の観点から下醍醐の霊宝館や平成館へ移動している仏像など多いのが現状です。また、上醍醐までの登山道は修験道のため、頂上まで行くためには険しい道を登らなくてはなりません。「どうしたら上醍醐へ楽しく登ってもらえるだろうか」ということを目標に、上醍醐登山道から伽藍、仏像、奥の院などを調査し、原所在地がどこなのか一目でわかる、下醍醐の仏像館なども合わせて楽しめるようなマップ・パンフレット作成に取り組みました。



◆ 主な活動

2016. 4. 23 醍醐寺 三宝院見学
2016. 5. 7 キャンパスプラザ京都 インタビュートレーニング
2016. 5. 22 キャンパスプラザ京都 全体オリエンテーション
2016. 6. 4 醍醐寺 三宝院 レクチャー
2016. 6. 11 キャンパスプラザ京都
2016. 6. 26 醍醐寺 上醍醐調査
2016. 7. 10 醍醐寺
2016. 8. 5 上醍醐 看板班調査
2016. 8. 6 上醍醐 マップ班登山道調査
2016. 8. 12 上醍醐 マップ班登山道調査
2016. 8. 28 女人堂 トラッキング調査
2016. 8. 29 上醍醐 ハイキングコース・燈籠調査

2016. 9. 11 醍醐寺 子ども観光大使 つけもの編
2016. 9. 14 京都橋大学 話し合い、マップ・パンフレット等作成
2016. 9. 18 醍醐寺 仏像館、上醍醐調査
2016. 9. 28 京都橋大学 話し合い、マップ等の手直し
2016. 10. 2 醍醐寺 上醍醐調査
2016. 10. 12 京都橋大学 話し合い
2016. 10. 29 キャンパスプラザ京都 プレゼンテーショントレーニング
2016. 11. 13 京都橋大学 パワーポイント作成
2016. 11. 27 醍醐寺 子ども観光大使 上醍醐編
2016. 11. 30 京都橋大学 パワーポイント読み合わせ
2016. 12. 5 京都橋大学 パワーポイント読み合わせ
2016. 12. 11 キャンパスプラザ京都 成果発表会

活動の成果

町石ほとけ手帳・上醍醐登山ナビマップ・上醍醐パンフレット(年表)

上醍醐参拝者の方に、参拝道を何か「想い」を持って歩いていただこうと考えて、醍醐寺の「町石」に注目しました。

「町石」は、道のりを示すもので、一町ごとに置かれています。この醍醐寺の「町石」は、女人堂から上醍醐にかけて、醍醐寺重要文化財の弘安八（1285）年石灯籠とが同時期に造立されたもので、全部で38本あります。各「町石」には仏尊名が刻まれ、おおむね金剛界37尊と対応しています。この参拝道を「巡礼」してもらいやすくしようと、内容をまとめたものが「ほとけ手帳」と「上醍醐登山マップ」であります。

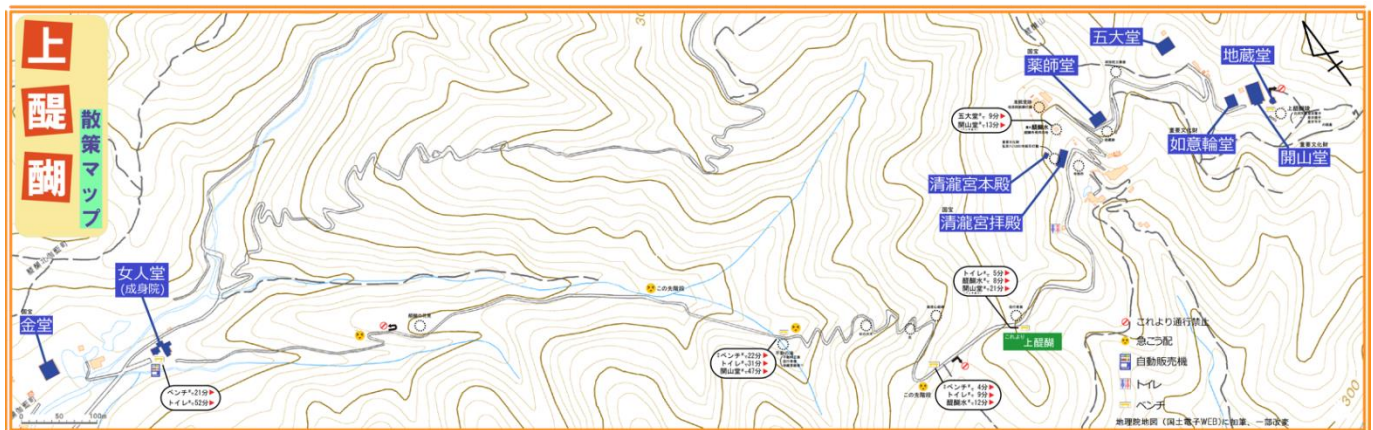
「ほとけ手帳」は、「町石」についての解説と仏図像を掲載しています。

「上醍醐登山ナビマップ」は、トイレ・ベンチ他、様々な見どころ、到達時間、難所なども掲載して、配色などにも気を配って作りました。

また、上醍醐の建物と仏像の関係の歴史がわかりやすいように、「上醍醐年表」などを掲載したパンフレットも作成しました。今、下醍醐の「霊宝館」「平成館」にある仏像は、上醍醐のどの建物にあったのか、消失してしまっている建物は、いつの時代まで残っていたのかなど、上醍醐の組合せ構成の変化がわかる内容にしました。



作成中の町石ほとけ手帳



作成中の上醍醐登山ナビマップ

活動を振り返って

今回、京都世界遺産PBL科目で上醍醐をテーマにして活動する中で、景観や神秘性を損なわずに、上醍醐をアピールしていく難しさを体感しました。また、上醍醐が山の上であり調査の度に登らなければならないことや、地図やパンフレットの作成において対象や目的を明確にすることができずに苦労しました。

しかし、実際の上醍醐に登って調査をしていくと、様々な発見や驚きを見つけることができ、より一層上醍醐の良さを多くの人に知ってもらい、登って欲しいという気持ちが強くなってきました。その中で、上醍醐に親しみをもってもらうために、参道にそってある38ある町石についての「上醍醐登山ナビマップ」や町石にともなった「町石ほとけ手帳」を作成することによって、子どもから年配の方々までの多くの人に登ってもらうことを計画しました。それらについて、醍醐寺のイベントに参加する子どもたちや大人に意見をいただき工夫を重ねて考えることができました。しかし、計画した山登りが雨天のため中止になるなど、実際には試すことができていませんが、そうした作成過程の材料を通じて、いろいろなコミュニケーションが生まれ、私たち自身にも得るものがたくさんありました。

上醍醐に登りながらの調査や上醍醐パンフレットの作成を通して、さまざまな人との「出逢い」や「触れ合い」の中、醍醐寺が大切にしている「祈り・感謝・思いやり」という日々の生活の有難さや周囲の人への感謝の気持ちといった日常生活の些細な喜びに気づくことができました。私たちの活動を通して、より多くの人が上醍醐を知り、そして登って様々な発見や驚きを体感し、「祈り・感謝・思いやり」を感じていただきたいと思っています。

担当教員からのコメント

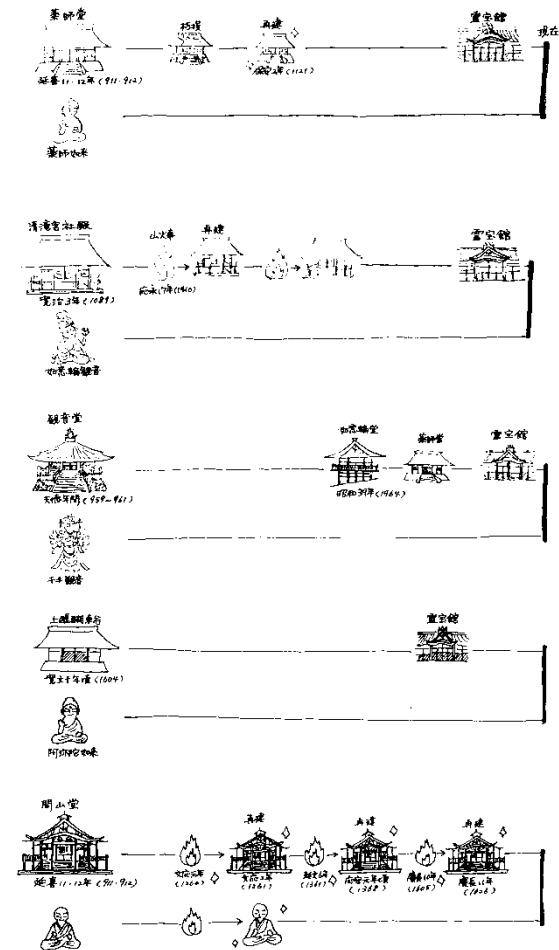
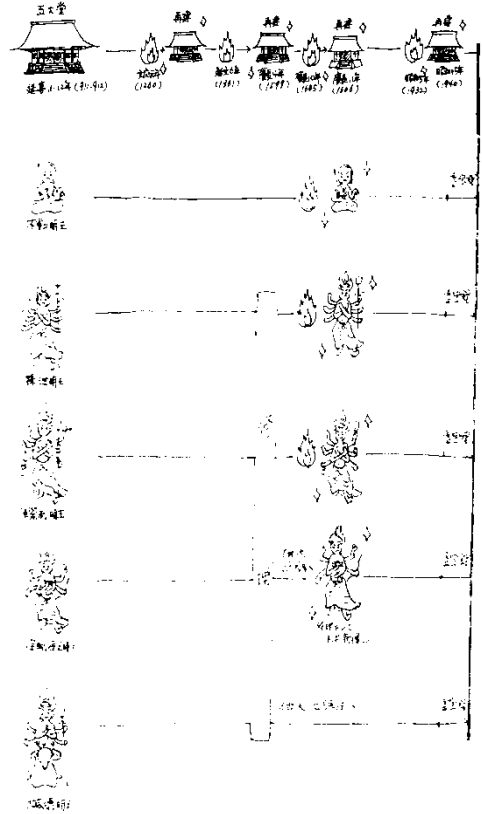
一瀬 和夫

まずは上醍醐に登る。そこに何があるかからはじまった活動でした。次ぎに、上醍醐に登る人はどのような人なのか、その行動観察やアンケート、ニーズの調査を行いました。その結果、町石ほとけ手帳、上醍醐登山ナビマップやパンフレットの必要性を感じ、その作成が試みられました。それらは、各自、担当がこつこつと何度も醍醐寺に足を運んだ成果であります。しかし現段階では、その試みの原初に形が世に出てきたものです。学生たちは、その骨格を醍醐寺に訪れた人に見てもらい、意見をもらいました。親しみやすい「ほとけ」のキャッチコピーや属性毎の色使いへの検討など、課題は山積みです。そして、何よりもまして、天候の不順もあって、成果品の使用体験の行動観察はなしえています。この活動は学生にとって、今はじまったばかりと言えます。

活動資料



作成中の上醍醐パンフレット表紙



作成中の上醍醐年表

